

担当のくらしいあるのかを対比して、来年度以降に引き継ぐ財産と住民負担が分かります。

バランスシートからわかること

平成17年度末における普通会計の資産総額は305億7、800万円（前年度より2億2、400万円増えています。資産のほとんどが公共施設や道路といった行政財産である有形固定資産が占めています。平成17年度に温知小学校を建設したため前年より増えています。地方債は、63億9、400万円であり、公共施設や道路を中心とする有形固定資産に対する地方債の割合は23・4%（前年度21・5%）となっておりまして、前年度に対して1・9%増えています。これは先も述べたように温知小学校校舎の建設費に借金をしたのが要因です。資産から負債を引いた正味資産は、いろいろな財産を手に入れるための財源のうち借金によらなかつたものを示しています。正味資産は234億8、400万円（前年度238億

700万円）であり、有形固定資産の85・4%を占めていまして、財産を手に入れるため財源は借金よりも税金などの一般財源を多く使ったことが分かります。借金の割合を少なくすることで次世代への負担割合を低くしております。

そもそも行政コスト計算書とはどんなものですか？

行政コスト計算書は、行政サービスを提供するために使われた費用と収入を対比したものです。どのようなサービスにどれだけのコストがかかっているかなど、行政コストの内容を示しております。これは、企業会計においてバランスシートとともに作成される損益計算書に相当するものです。行政コスト計算書を作成することにより、単年度の消費的経費である「行政コスト」を明らかにし、また減価償却費といった現金支出を伴わないコストも明示することにより、町の活動に要した経費を総合的に把握することができます。

行政コスト計算書の比較表

（単位：千円）

	平成17年度		平成16年度		増減
	金額	構成比	金額	構成比	
【行政コスト】					
1.人にかかるコスト (人件費、退職給与引当金繰入)	1,317,404	21.0%	1,320,150	20.6%	△ 2,746
2.物にかかるコスト (物件費、維持修繕費、減価償却費)	2,251,419	36.0%	2,280,285	35.5%	△ 28,866
3.移転支的的なコスト (扶助費、補助費等、繰出金 普通建設事業費(他団体等への補助金等))	2,577,004	41.2%	2,681,998	41.8%	△ 104,994
4.その他にかかるコスト (災害復旧事業費、公債費の利子 不納欠損額)	110,884	1.8%	133,126	2.1%	△ 22,242
行政コスト計	a	100.0%	6,415,559	100.0%	△ 158,848
【収入項目】					
1.使用料・手数料等	b	8.2%	428,113	7.8%	26,271
	b/a	7%	6%		
2.国庫(県)支出金	c	8.9%	502,206	9.1%	△ 11,491
	c/a	7%	7%		
3.一般財源	d	82.9%	4,564,366	83.1%	9,365
	d/a	73%	71%		
収入計(b+c+d)	e	100.0%	5,494,685	100.0%	24,145
4.正味資産国庫(県)支出金償還額	f		232,570		12,463
5.期首一般財源等			21,050,746		△ 688,304
収支差引(e-a+f)			△ 688,304		195,456
6.期末一般財源等			20,362,442		△ 492,848

行政コスト計算書からわかること

池田町の行政コストは62億5、700万円（前年度64億1、600万円）で補助金や他会計への繰出金といった移転支的的なコストと物件費や減価償却費といったものにかかるコストが全体の8割弱を占めています。「コスト自体は前年比1億5、900万円減でありコスト削減をしたことが分かります。収入は55億1、900万円ですが減価償却にかかる国庫(県)支出金である2億4、500万円をたすと57億6、400万円（前年度57億2、700万円）となり行政コストから収入を差し引いた「収支差額」は4億9、300万円のマイナスとなりました。池田町の場合、財源に比べて4億9、300万円多い行政コストで運営されていることが分かります。用語説明は次ページを参照して下さい。